

ICT多職種連携の前にやるべきこと

演題No.P4-33

～「身の丈に合った」在宅医療ICTシステムでの院内の連携整備が先決！～

医療法人社団功和会 平野クリニック

久保田 義悟、青野 邦之、中井 康晴、黒木 基夫、坂本 和英、平野 功

はじめに&目的

現状

- ICT多職種連携は「既定路線」になりつつある（今後、加速化するか？）

●当院はその流れに対して「周回遅れ」状態（旧態依然＝「紙」と「人力」が主役）

←→

主に3つの切り口から進める

**①「紙」と「デジタル」、
「デジタル」と「デジタル」で
パラパラな情報の一元化**

**②個々の担当者が
情報を抱え込んでしまう…
「個人的な仕事スタイル」の
解消**

仕事の手順が煩雑で個人差が大きい？

**③持ち帰り仕事を減らす！
「現場処理重視の
仕事の流れ」への軌道修正**

訪問現場で仕事が完結しない！

では…
まずどうするか？

- 院内が「一枚岩」になる！
- 院内の情報共有から着手
- 日常業務の標準化を図る

同じことを何回も書いたり…、入力したり…

これまでの仕事の流れを「棚卸し」をしながら
現在進行形で実施している取組みを報告する

方法

「システム」と「端末」の2本立てで進める

■「システム」

- 在宅医療支援システム(アプリ群)の構築
- 目的:院内の情報の「一元化」「可視化」「(まず院内の)連携」「内部統制」
- ツール:「Kintone(キントーン)」サイボウズ社のクラウド型業務改善プラットフォーム

サイボウズ kintone

■主なアプリ群

- ①顧客(患者)台帳アプリ
- ②参照用各種テーブルアプリ (院外多職種連携先台帳テーブルなど)
- ③日報アプリ (+ 電子カルテとの一部連携) (+ スケジュールング)
- ④医事文書作成・管理アプリ ※連携サービスの「プリントクリエイター」使用

③A: 院内連携用
③B: 院外事業所連携用 (多職種連携用)

PC格納スペース

■「端末」

- 目的:院外の「現場」と院内のデスクで途切れなく使用
- ツール:Windowsタブレット端末 (SurfacePro4)

※2系統運用の「縛り」あり

- ・訪問医師が小型ノートPCで電子カルテ運用
- ・同行事務員がSurfaceにてKintoneアプリを主に運用

右がSurfacePro4
左が電子カルテ用PC
音声入力マイクあり (AmiVoice)

結果

まだまだ発展途上の状態

「Kintoneテスト期間」

- 2016年6月～2018年1月
- 一部メンバーで現場運用 (二足の草鞋)
- 開発・運用知識の学習蓄積

「Surface本番稼働」

- 2017年5月スタート
- 通常のPCとして使用 (主にエクセルとグループウェア使用)

「Kintone本番運用」

- 2018年2月スタート
- 事務方全員で運用 (医師は電子カルテに専念)
- まだ慣熟期間が必要

●十分なテスト期間を置いて本番運用に踏み切ったが…

●当院のレガシーシステム(紙やエクセルなど)からの移行過渡期の混乱あり

考察

主に2つの切り口から進化させる

「道具として」

- R&D(リサーチ&ディベロップ)での完成度UP
- レガシーシステムからの調整と移行
- 次フェイズの課題精査して実行 (2系統問題改善、UIや機能のカスタマイズ実施)

「人・組織として」

- 慣熟レベルを上げる
- 運用知識の学習蓄積と共有化

●「現場の声」と「合理性・整合性」の双方重視での「開発→教育→運用」を継続してシステムの完成度を上げ連携範囲の拡大が必要であるとする

【参考】メディカルICTリーダー養成講座(4章:システム連携学、6章:システム購買学)2017日本医師会ORCA管理機構

<p>日本在宅医学会大会・第20回記念大会 2018年4月30日・グランドプリンスホテル新高輪</p>	<p>日本在宅医学会 COI開示 筆頭発表者:久保田 義悟 開示すべきCOIはありません</p>	<p>連絡先:平野クリニック 事務 久保田 義悟 メール:kubota14005@kowakai-hcl.com</p>
---	--	--